

令和4年度第1回 古賀市上下水道事業経営等審議会 会議録

審議会名称

令和4年度第1回 古賀市上下水道事業経営等審議会

開催日時

令和4年8月1日（月） 10:00～12:00

開催場所

市役所 第1庁舎4階 第2委員会室

傍聴者 0名

出席者

委員：松本委員（会長）、後藤委員（副会長）、浦野委員、中島委員、西本委員、三輪委員、宮崎委員

事務局：小山建設産業部長、足立上下水道課長、渋田参事補佐兼上水道係長、大砂総務・上水道管理係長、中島下水道管理係長、三原下水道係長、清水給排水係長、吉村業務主査、廣田業務主査、向井業務主査、真崎業務主査、久保田主任主事

1. 開会

2. 市長挨拶

3. 委嘱書の交付

4. 自己紹介（委員、事務局）

5. 会議の成立の及び資料の確認

・委員7名全員の出席、本日の傍聴者0名のため、会議成立を報告し、資料の確認。

6. 会長・副会長の選任

・会長を松本委員、副会長を後藤委員と決定。

7. 諮問

●第1号 古賀市浄水場のあり方及び水源の見直しについて

・市長より諮問書を読み上げ、会長に交付。

8. 議事

(1) 令和3年度第2回審議会（書面会議）議事概要について（資料4）

- ・資料4、令和3年度第2回審議会（書面による開催）について説明
- ⇒質疑等なし。

(2) 諮問にかかる概要説明について（資料5）

●第1号の古賀市浄水場の在り方及び水源の見直しについて（資料5）説明

- ・浄水場は老朽化が進んでいる。
- ・自己水源は時期によっては水量が著しく減少し、不安定な水源である。
- ・安定と低価格を実現するには、古賀市の自己水源を北九州市の河川または福岡地区水道企業団の大容量ダムに水源転換することが必要と考えられる。
- ・他団体からの増量には、古賀市単独の要望では厳しいため、広域化、施設の共同利用で、福岡県広域化推進プランに掲載してもらい、時期的に不安定になる自己水源に替わる安定水源を確保することが、今後の古賀市の発展、企業誘致にも有利だと考えられる。
- ・浄水場を廃止し、北九州や福水企から受水した場合の古賀市災害時、北九州災害時、福水企災害時における災害時シミュレーションについて説明。

⇒質疑応答。

委員・災害とはどのようなものを想定しているか。

- ・節水機器が増え、水需要は減ってくるのではないかと。
- ・耐震構造はどうなっているのか。

事務局・災害については水害や地震を想定している。

- ・水需要については、企業誘致を進めているので一概に減ってくるとは言えないが、現在確保している総配水量 16,000 トンについては減じることができる。
- ・耐震化は進んでないが、災害が発生した場合は夜間断水や水圧低下、また 1 人当たり 1 日 20 ℓあればなんとか生き延びていけるため、給水袋や給水車の活用を考えている。

委員・企業誘致の関係もあるが、節水機器等の普及も進んでいるため総配水量については減らしても良いのではないかと。

- ・浄水場の存続については費用の関係を説明すれば、使用者に理解してもらえるのではないかと。
- ・今の古賀市の状況からいうと廃止しても良いのではないかと。

委員・災害時にどれだけの水資源を我々古賀市として確保すべきなのか。

- ・浄水場なしでも確保できるのなら廃止しても良いと思うが、無理ならば必要最低限の生活を維持するための水源は自己水源として持つべき。

事務局・給水人口に 20ℓ をかければ良いと思うため、4,600 トンあれば十分と思われる。

- ・災害シミュレーションで説明したとおり、4,600 トンの水は浄水場がなくても確保できる。各家庭の災害時の準備としては、給水タンクを準備してもらうこと等があるので、これから啓発活動も含め行っていきたい。

- 委員・ダウンサイジングをした際、令和 10 年には料金値上げとはどのくらいになるのか。
- ・値上げ金額によっても浄水場の廃止についての意見は変わってくるのではないだろうか。
- 事務局・ダウンサイジングした時の値上げ料金は、月 1,000 円程度。市民討議会において、この値上げ額を提示した結果、若年層からは廃止の意見を多くいただいた。
- 委員・浄水場がない場合、給水車への水はどこからいただくのか。
- 事務局・配水タンクの水量が一気に下がって赤水が出ないように、タンクのすぐ下のバルブをかなり絞り、第 10 期拡張事業で建設したポンプ場や、すぐ横の消火栓から取水する。
- 委員・災害が起きた時に、古賀市に自己水源がなければ、水が全然入ってこないということはないか。絶対水はいただけるものなのか。
- 事務局・もしも自己水源を水源転換された場合も、今の自己水源 4,400 トン（実際自己浄水したら約 10%はロスがあり 4,000 トン）より、他団体からの 4,400 トンの方が有効に受水できる。
- ・浄水場を新しく建て替えても、管路が災害に耐えられない状況。
 - ・大口径の導水管の更新が将来的に増加すると、一気に料金がかさむため、緊急連絡管をうまく利用するほうが有効であると考えられる。
- 委員・自己水源の確保がどこまでできるかというのが 1 番大きな課題。
- ・1 番消費者が敏感なのは、値上げについてのため、どこまで説得力のある数値であるか、また見える化したものが提示できるかが大事。
- 事務局・水源の確保については、協定水量や水利権の問題があるので、他団体の余り水がすぐ融通されるわけではない。
- ・緊急連絡管の使用は保全用水のため、古賀市単独での老朽化や自己水源の安定化の理由では厳しいが、宗像地区、古賀、新宮との施設の共同利用（広域化）を、福岡県を通して話をしていきたい。
 - ・供給単価でも浄水場をつくると 220 円だが、福岡都市圏、福水企からもらえると 116 円とかなり安価なため比較しながら考えている。
 - ・もしも出来ない場合は水道料金があがるが、浄水場を建設して安定水を確保しなければいけない状況。
- 委員・大きな災害になった場合は、国が関与して水を供給するということはないのか。
- 事務局・緊急連絡管自体が、基本的には福岡県で建設をしており、認可などは国も携わっているが、実際、水の使用については、福岡県で采配している。
- 委員・福津、宗像も浄水場を 10 何年前に廃止し、実際に廃止されてるところは、対費用効果を出されてると思う。
- ・住民に説明する場合は、統一的な見解をまとめて説明していただくことをお願いしたい。
- 事務局・自己水源がなくなることに對して、皆、心配もあるため、他の自治体の例も踏まえ、利用者に丁寧な説明が出来るよう努力していきたい。
- 会長・答申案を作成するため、改めて審議をお願いしたい。委員の皆様は、諮問に対する御自身の意見を整理しておいていただきたい。

(3) 令和2年度水道事業について（他市町比較）（資料6）

●令和2年度水道事業について説明

- ・古賀市の経常収支比率は115.19%。料金回収率は108.66%であるため、給水に係る費用を108.66%、給水収益で賄えていることを示している。
- ・古賀市の流動比率は374.3%であり、健全な経営であると言える。
- ・古賀市の自己資本構成比率は71.5%であり、事業の安定性が高いと言える。

⇒質疑応答。

委員・宗像地区事業組合の特別損失が23億という大きな数字が出て理由が分かれば教えていただきたい。

事務局・中身は分からないが、営業費用ではない部分で大きな損失があったのだと思う。

(4) 令和2年度事業について（他市町比較）（資料7）

●令和2年度事業について（他市町比較）（資料7）について説明

- ・損益計算書を見ると、営業費用を営業収益で賄えていないため、適正な使用料収入の確保等による営業収益の増、及び経営効率化による費用の削減が今後の課題であると言える。

特に農業集落排水事業においては、収益全体が少なく費用をほとんど賄えていないため損失が発生し、一般会計からの繰入金で赤字補填を行い、損失を埋めているような状況である。

- ・資産と負債の状況を見ると、資産に対する負債の割合が多く、事業経営の安定化を図るための自己資本を増やすような経営努力が今後必要である。

特に農業集落排水事業においては、負債が多く債務超過となっているため、今後は事業を見直し、公共下水道への統合等施設の最適化について検証するなど、経営改善に向けての取組が不可欠である。

⇒質疑等なし。

(5) 古賀市下水道事業経営戦略の改定について（資料8）

●古賀市下水道事業の経営戦略の改定について説明

⇒質疑等なし。

(6) 古賀市浄水場のあり方及び水源の見直しにかかる答申案について

●答申案の説明、内容の読み上げ

⇒質疑等なし。

9. 古賀市浄水場のあり方及び水源の見直しにかかる答申について

- ・答申に署名

10. その他

11. 閉会